



# 高齢者向け おすすめ紙芝居



福祉施設など高齢者ケアの現場、ご家庭などで活用できる、  
紙芝居・大型絵本のリストです。

懐かしい話、季節や行事に関する話、面白い落語、郷土に  
まつわる話、昔話や民話など、たくさんご用意していま



＜お問い合わせ＞ 田原市中央図書館 元気はいたつ便担当 TEL:0531-23-4946

平成30年9月改訂

## 担当イチオシ！

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
1	愛染かつら		川口松太郎 // 原作 サワジロウ // 脚本・絵 梅田佳声 // 監修 雲母書房	中央	看護婦のかつ枝は、病院長の息子である浩三と恋に落ちた。京都で一緒に生活する予定だったが、娘の敏子が病気になり行けなくなる。ある日、浩三は病気の敏子を診察することで、かつ枝の存在を知り、未だ続いている恋心を伝える。	恋 映画 テレビ
2	安珍清姫物語		サワジロウ // 脚本・絵 雲母書房	中央	熊野詣に行く途中、安珍は清姫という娘に出会った。清姫は安珍に一目惚れをし、どうしても夫婦になって欲しいと懇願する。安珍は、しつこい清姫から早く逃れたい一心で、「熊野詣に行って来たら夫婦になる」と嘘の約束をしてしまう。さて、安珍の運命は…。	恋 ヘビ
3	お茶にしましょ		菅野博子 // 脚本・絵 雲母書房	中央	あなたは、ちゃぶ台の前に座っている人になります。お客様がやってくると、お茶をふるまう前に“しりとり遊び”が始まります。ちゃぶ台から始まり、みかんまで。昭和の雰囲気たっぷりで、思い出話が広がること間違いない。	冬 しりとり お茶
4	きつねの盆おどり		ときわひろみ // 脚本・絵 雲母書房	中央	お墓参りの帰り、キツネの親子に出会う。その後家に帰ろうとするが道に迷ってしまう。すると、にぎやかな音が聞こえてきた。どうやら盆踊りをしているよう。自分達もその輪に入って踊るが…	夏 キツネ 盆おどり 炭坑節
5	金色夜叉		尾崎紅葉 // 原作 サワジロウ // 脚本・絵 雲母書房	中央	貧乏学生の貫一の許嫁である宮は、資産家の富山に見初められ結婚することになった。驚いた貫一が熱海の海岸で宮の気持ちを確かめると、宮は富山の財力に心ひかれ、その気であることを知る…。	恋 熱海 かるた会
6	続金色夜叉		尾崎紅葉 // 原作 サワジロウ // 脚本・絵 雲母書房	中央	富山と結婚した宮であったが、上流階級に嫌気がさしていた。そんな時、高利貸しとなった貫一と偶然出会う。復縁を懇願した宮だったが…	金持ち 高利貸し 後悔 復縁

7	こんやのおかず		ピーマンみもと // 脚本・絵	中央	絶対に煮崩れしないと言い張る豆腐。それを聞いたコンニャクたちがマラソンやK1の勝負に挑む。さて、結果はいかに？	豆腐 コンニャク 白あえ 晩御飯
8	昭和の窓		やべみつのり // 脚本・絵 遠山昭雄 // 監修 雲母書房	中央	昭和時代のなつかしい台所道具・遊び道具・おやつなどを昭和の窓から覗いて当てる参加型の紙芝居	マッチ・さつまいも 洗濯板・黒電話 郵便ポスト お釜
9	どつかーん		宮崎二美枝 // 脚本 おかのけいこ // 絵 雲母書房	中央	花火大会を家族みんなで鑑賞。菊の花、スイカ、入れ歯、鶴、亀など色々な打ち上げ花火が上がる。思わず笑ってしまう楽しい話。読み手と聞き手が一緒に創る、参加型紙芝居	ユーモア 花火
10	峠の老い桜		北川鎮 // 脚本・絵 雲母書房	中央	ある村に老い桜が1本立っていた。戦争中、老い桜は台風で倒れたが、戦後倒れた木の根元から若い芽が出て、大切に育てられる。	桜 田植え 戦争
11	なまたまご		おかのけいこ // 脚本・絵 遠山昭雄 // 監修 雲母書房	中央	昭和22年、戦争が終わった後のおはなし。からだの弱いさっちゃんは生卵を毎日飲んで栄養をとりました。でも、その度にお母さんがお嫁入で持って来た柳行李の中にある着物が減って…。	卵 柳行李
12	夏のおもてなし		菅野博子 // 脚本・絵 雲母書房	中央	暑い夏のある日、おじいさんおばあさんの家に孫たちが遊びに来た。そこで冷たい麦茶に枝豆などでおもてなし。自然の恵みに感謝し、孫たちと楽しい一日をすごす。読み手と聞き手が一緒に創る、参加型紙芝居	夏 ところてん 鮎 スイカ ソーメン
13	花嫁さん		サワジロウ // 脚本・絵 雲母書房	中央	婚礼の日を迎えた花嫁の一日を描いたおはなし。高島田に髪を結い上げ、振りそでを着て角隠しをし出立。両親に感謝の言葉で別れの挨拶をして嫁ぎます。	結婚 高島田 角隠し ハコセコ 花嫁行列
14	瞼の母		長谷川伸 // 原作 サワジロウ // 脚本・絵 雲母書房	中央	五歳の時に生き別れた母をひと目みたいと願う忠太郎。やっと母らしい人を見つけるが、「あたしの生んだ子はもう死んでしまったんだ」と言われてしまう。	ヤクザ 再会 親子

15	もも子さんとオレオレ詐欺		中村ルミ子 // 脚本・絵	中央	息子によく似た声の男から、困っているので、お金を振り込んでほしいと電話がかかってくる。あわや銀行にお金を振り込もうとするが…	振り込め詐欺
----	--------------	--	---------------	----	--	--------



## 季節・行事

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
16	ひなにんぎょうのむかし		小野和子 // 作 池田げんえい // 画 教育画劇	中央 渥美	病気がちの娘のため、父親はセキレイが落とした枝で人形を彫った。娘は人形をもらって遊び、すっかり元気になった。傷んだ人形はボロボロに傷み、休んでもらおうと川へ流すことに…。ひな祭りの始まりの話。	3月 ひな祭り セキレイ
17	むかしむかしの ひなあられ		松岡節 // 作 毛利将範 // 画 教育画劇	中央	毎日一生懸命働いているのに、欲張り長者がくれたのはとても小さなお餅。大人は捨てたけれど、おはなは大事に拾い、おてんとう様の助けを借りてひなあられにした。それを見た長者は、大きなお餅をあられにしてもらおうと、おてんとう様に頼むが…。	3月 ひな祭り
18	おひなさまになった にんぎょう		東川洋子 // 作 きよしげのぶゆき // 画 教育画劇	中央 渥美	藁で作った人形“カタシロさん”は、災いを払ってくれる。ある日、無口なおみつが、カタシロさんとなら話をするようになつた。カタシロさんを川に流す日、おみつは「どうしても流してほしくない」と泣いて離さない。流しひなが、家で飾るおひなさまとなつた話。	3月 ひな祭り
19	おだんごころころ		坪田譲治 // 作 童心社	中央 赤羽根	お彼岸に作ったお団子が、コロコロころがり穴に落ちてしまった。おじいさんは穴の中にいたお地蔵さんの言いつけを守り、鬼の宝物を手にした。それを聞いた隣のおじいさんが真似をするが…。	3月・9月 お彼岸 お団子 地蔵

20	ぴょんぴょんぼたもち		高木あきこ//文 中沢正人//画 教育画劇	中央 渥美	食いしんぼうのおばあさんは、ぼた餅に「誰かが食べようとしたら、カエルになるんだよ！」と言い、棚の奥にしまった。それを見つけた男の子は全部食べ、代わりにカエルを入れた。おばあさんがぼた餅を食べようとすると、中からカエルが出てきて大さわぎに。	3月・9月 ユーモア ぼた餅 カエル
21	ぼたもちをくったほとけさま		やすいすえこ//文 ひらのてつお//画 教育画劇	中央 渥美	くいしんぼうの和尚さんが、ぼた餅をもらった。「誰も食べないように！」と言いつけたが、小僧さんは我慢ができずに食べてしまった。そして、ほとけ様の口にあんこの残りを塗り、自分が食べてない事を主張して…。	3月・9月 ユーモア ぼた餅 知恵
22	ばかされギツネ		菊地ただし//文 山口みねやす//画 教育画劇	中央	キツネに化かされたふりをして、まんまと美味しい料理とお土産をもらって帰ったクマゴロウ。しかし、お稲荷様のキツネを化かすと、後で大変なことになると思い、ぼた餅を持ってお詫びに行くことに…。元の話は、落語の『王子の狐』。	3月・9月 キツネ ぼた餅 落語
23	こいのぼりさんありがとう		桜井信夫//作 多田ヒロシ//画 教育画劇	中央 渥美	侍の家では、5月5日に悪いことが起こらないよう、旗のぼりを家の庭に立ててお祭りをしていた。それを町民の子どもがうらやましがり、滝をのぼり竜王になるという鯉を描いた布を、旗のぼりの代わりにして空に泳がせた。鯉のぼりの由来となる話。	5月 鯉のぼり こどもの日
24	げんきができるよかしわもち		山本省三//作・画 教育画劇	中央	身体の弱い弟のため、悪い病気を追い出すという柏の葉を探しに、兄は森の奥深くへ向かった。やっと手に入れた柏の葉でお餅をくるみ、弟に食べてもらう。柏餅の由来となる話。	5月 柏餅 兄弟 こどもの日
25	なぜ、おふろに しょうぶをいれるの？		常光徹//脚本 伊藤秀男//絵 童心社	中央 赤羽根	娘と仲良くなった若者の正体は、“大蛇”。大蛇の子どもを身ごもった娘はなぜか体が弱っていき、心配した母親はヨモギと菖蒲のお風呂に娘を入れた。そのお湯で、娘は元気になる。5月5日に菖蒲やヨモギをお風呂に入れる風習の由来となる話。	5月 こどもの日 ヨモギ 菖蒲 鯉のぼり
26	くわづ女房		松谷みよ子//脚本 長野ヒデ子//画 童心社	中央	けちな男のところに、めしを食わない働き者の嫁が来る。しかし、どうも怪しい。ある日、男が出かけたふりをして天井裏から覗くと、そこには恐ろしい山姥が。命からがら逃げた男がたどり着いたのは…。5月の節句にぴったりなお話。	5月 山姥 こどもの日 菖蒲

27	たうえにいったよ		よこみちけいこ // 脚本・絵 童心社	中央 渥美 赤羽根	姉弟が、おばあちゃんの田んぼで初めて田植えをする。泥だらけになつたり、腰が痛くなつたり大変。でも作業の後のおにぎりは格別においしい。	5月 田植え おにぎり メダカ オタマジャクシ
28	とんだちょうじやどん		堀尾青史 // 作 二俣英五郎 // 画 童心社	中央 渥美	欲の深い長者どんは、百姓と召使をうんと働かせねばと、山じゅうのワラビ採りを思いつく。「日の暮れないうちに1本も残らず採るように」と命じるが、どうやら採れそうもない。そこで長者どんは、太陽までも自分の思い通りにしようとする。	5月 欲 ワラビ



番号	タイトル	表 紙	著者・出版社	所 藏	内 容	キーワード
29	たなばたのおはなし		西本鶴介 // 作 工藤市郎 // 画 教育画劇	中央 渥美	海辺で美しい着物を盗んだ男は、着物を失った娘と結婚。その後、隠されていた自分の着物を見つけた娘は天に帰って行った。男が天に行くと、娘の父母は盗人である男をこらしめようと、2人は1年に1度だけしか会えないようにしてしまう。	7月 七夕 天の川 草鞋
30	なぜ、七夕に ささかざりをするの？		若山甲介 // 脚本 藤田ひおこ // 絵 童心社	中央 渥美 赤羽根	はた織りの上手な織姫と、働き者の牛飼いが恋に落ちた。恋にうつつを抜かした2人に怒った天の神は、1年に1度しか会えないようにしてしまう。織姫にあやかり手仕事が上手になるように、また、願い事が叶うように笹飾りをするという七夕の由来の話。	7月 七夕 恋 願いごと 笹飾り
31	天の川にかかるはし		小野和子 // 文 狩野富貴子 // 画 教育画劇	中央 渥美	天の神様の娘、織姫は布を織るのが得意。一方、天の川の端に住む牛飼いはとても働き者。そこで天の神様が2人を夫婦にするが、お互い恋に夢中になり、仕事がおろそかになつていった。怒った神様は、2人を年に1度だけしか会えないようにする。	7月 七夕 恋 天の川

32	たんざくにおねがいかいて		木暮正夫 // 作 岡村好文 // 画 教育画劇	中央 渥美	手習いができないので、お寺を追い出された小僧さん。隣村のおばあちゃんから、七夕にまつわる話を聞き、短冊に「手習いができるように。和尚さんが迎えに来るよう。」と願いごとを書く。さて、願い事は叶うのか？	7月 七夕 願いごと 手習い
33	たなばたものがたり		北田伸 // 脚本 三谷鞠彦 // 画 童心社	中央 渥美	空の上を流れる天の川の岸辺に、牛飼いの彦星とはた織りの織姫が住んでいた。ある日、天の神様がやって来て、2人は夫婦になる。しかし、仕事もせず遊んでばかりいる2人に神様は怒り、元のように川の向こう岸とこちらに分かれて暮らすように命じる。	7月 七夕 天の川
34	りゅうになったおむこさん		今関信子 // 脚色 西村達馬 // 画 教育画劇	中央 渥美	池で洗濯をしていると、ヘビから手紙をもらった。手紙にはヘビが3人娘の1人を嫁にもらいたいと書いてある。ヘビのたたりが怖く、一番下の娘が嫁に行つたところ、ヘビは実は池の神様だった。喜んだ娘だったが…。	7月 七夕 約束 恋 ヘビ





# 秋

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
35	へっこきよめさま		水谷章三 // 脚本 藤田勝治 // 絵 童心社	中央	人を吹き飛ばすほどの威力のおならをするので、里に帰されてしまったお嫁さん。しかし帰る途中、子どもやお殿様のため、何とおならの力で高くて採れなかった梨の実を落として大活躍！	9月 ユーモア おなら 嫁
36	へっこきよめ		香山美子 // 文 川端誠 // 画 教育画劇	中央 渥美	人を吹き飛ばすほどの威力のおならをするので、里に帰されてしまったお嫁さん。しかし帰る途中、倒れた木を戻したり、重い舟を動かしたり、お殿様のために高い木の梨を採ったりと、何とおならで大活躍！	9月 ユーモア おなら 嫁
37	ちからたろう		川崎大治 // 脚本 滝平二郎 // 画 童心社	中央 渥美	じいさまが、山から大きな栗を一つ拾って帰ってきた。ばあさまが栗を手につかむと、中から赤ん坊が生まれ、じいさまとばあさまは“ちからたろう”と名づけた。15年が経ち、ちからたろうは百貫目の金棒を持って、力くらべの旅に出ることに…。	9月・10月 栗 力くらべ 化けもの
38	おににさらわれたあねこ		水谷章三 // 脚本 須々木博 // 画 童心社	中央 渥美	親のいない姉と弟が栗拾いをしていると、姉が鬼にさらわれてしまった。弟はやっとの思いで姉を見つけ、煎り豆の食い比べで鬼に勝って逃げ出すのだが…。	9月・10月 ユーモア 兄妹 鬼
39	なぜ、お月さまに おそなえをするの？		渡辺享子 // 脚本・絵 童心社	中央 赤羽根	十五夜の日、お月さまにお供えするため、サトイモを掘り、ススキやアケビを探り、お団子を作ったりする。中国やベトナムのお月見を紹介した作品で、お月見は、お月さまに収穫の感謝をするための行事であることを学ぶ。	9月・10月 お月見 中国 ベトナム
40	ごんぎつね		新美南吉 // 原作 清水たみ子 // 脚本 長野ヒデ子 // 画 童心社	中央 渥美	いたずら好きのごんぎつねは、ある日、川にいた兵十のビクの魚を投げ捨てる。すると、その魚は亡くなったお母さんのために捕ったものだと後になってわかった。ごんは反省し、兵十の家へ内緒で栗や松茸をせっせと運ぶのだが、ある日、それが兵十に見つかり…。	9月・10月 キツネ 命

41	けいろうのひ		いとうみき // 作・絵 教育画劇	中央	ある若者が薪をひろいに山に行くと、水のきれいな滝にたどり着いた。その水をおじいさんのために持つて帰ると、何とそれは水ではなくお酒だった！敬老の日の由来となる話。	9月 敬老の日 孝行 酒
42	うまいものやま		佐々木悦 // 脚本 箕田源二郎 // 画 童心社	中央	ぐうたらで偏食の茂作を心配したおやじどのは、「お殿様しか入れない“うまいものやま”へ連れて行ってやる」と、茂作を山に連れだした。しかし、その山にうまいものなど無く、へとへとになって茂作は帰った。さて、空腹を我慢できない茂作はどうする？	10月 ユーモア 偏食 空腹
43	かにむかし		田畠精一 // 作 木村次郎 // 作 童心社	中央 渥美	ある日、さるどんは、かにどんのにぎりめしと自分の柿の種を無理やり取りかえた。しかし、かにどんはその種を大切に育て、柿の木はたくさんの実をつけた。すると、さるどんが横取りするため、またやって来て…。日本の昔話『さるかにがっせん』。	10月・11月 サル カニ 命
44	モチモチの木		斎藤隆介 // 原作 諸橋精光 // 脚本・画 鈴木出版	中央 赤羽根	夜トイレに行くこともできない臆病な豆太は、ある夜、じさまが病気になり、勇気を振りしぶってお医者様のもとへ駆けて行った。すると、一年に一度、勇気のあるものだけが見ることのできる光るモチモチの木の姿が…。	11月 トイレ 勇気 おじいさん





冬

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
45	かさじぞう		松谷みよ子 // 脚本 まつやまふみお // 画 童心社	中央 赤羽根	おじいさんはおばあさんの織った布を町に売りに行くが、売れずに傘と交換して帰ることに。帰り道、寒そうな六地蔵に傘と自分の手ぬぐいをかけてやり、夫婦は質素に年越しを迎える。するとその晩、お地蔵さまがご馳走や着物を持ってやってきた…。	12月・1月 雪 地蔵 大晦日
46	かさじぞう		長崎 源之助 // 文 箕田 源二郎 // 画 教育画劇	中央 渥美	おじいさんは薪を町に売りに行くが、売れずに傘と交換して帰ることに。帰り道、寒そうな六地蔵に傘と自分の手ぬぐいをかけてやり、夫婦は質素に年越しを迎える。するとその晩、お地蔵さまがご馳走や着物を持ってやってきた…。	12月・1月 雪 地蔵 大晦日
47	つるのおんがえし		岡上 鈴江 // 文 輪島 みなみ // 画 教育画劇	中央 渥美	雪の山道で、おじいさんは畳にかかったツルを助けてやった。次の日の夕方、美しい娘がおじいさんの家を訪ねてきた。家においてもらうことになった娘は、はたを織る間、「部屋の中を絶対のぞかないように」とお願ひするが…。	12月～2月 ツル はた織り 恩返し
48	てぶくろをかいに		新美南吉 // 原作 堀尾青史 // 脚本 童心社	中央 渥美	寒い冬、手ぶくろがほしいとねだる子ギツネ。母さんギツネが手をこすると、子ギツネの右手は人の手に。母さんギツネはその手にお金を握らせ、「こっちのおててをだして、よろずやさんで手ぶくろを買っておいで」と送り出すが…。	12月～2月 ギツネ 手袋
49	かわうそときつね		堀尾青史 // 作 松島わき子 // 画 童心社	中央 渥美	ご馳走してもらったギツネは、「次は自分がご馳走するから遊びに来てくれ」とカワウソに言った。けれど、カワウソが何度も訪ねても、言い訳ばかりでご馳走してくれない。怒ったカワウソは、ギツネに魚のたらめな釣り方を教え…。	12月～2月 氷 ギツネ カワウソ 約束

50	ゆきおんな		桜井信夫 // 脚本 箕田源二郎 // 絵 童心社	中央 渥美	山の中で漁師の親子が雪女に出会った。何年か後、その女が親子の元を訪ねてきた。「誰にも自分の事を言ってはいけない」と女にと言われていたのに、親子はつい話してしまい…。約束を破ったと、女は子どもを置いて去ってゆく。	12月～2月 雪女 約束
51	なぜ、かがみもちを かざるの？		千世まゆ子 // 脚本 鈴木びんこ // 絵 童心社	中央 赤羽根	鏡餅を飾るのは、神様をお迎えするための座布団のようなもの。門松やしめ縄は、家を間違えないための道しるべ。おばあさんが孫に、欲張り長者と優しいじいさんの話を交えて、お正月の迎え方を語る。	1月 お正月 鏡餅 しめ縄 門松
52	としがみさまとおもち		小野和子 // 作 西村達馬 // 絵 教育画劇	中央	お正月にとしがみさまがくださるお年玉は、丸いお餅。おとし(歳・年)だま(魂)。昔は皆、お正月に1つ年をとっていたことを、お餅つきの準備をしたり、ついたお餅を丸めながら、おばあさんが孫に語る。	1月 お正月 餅つき お年玉
53	ゆめみこぞう		若林一郎 // 脚本 藤田勝治 // 絵 童心社	中央	小僧が良い初夢を見たと言うので、皆が何とかして聞き出そうとするが、小僧は決して話さない。怒った殿様は、小僧を海に流してしまう。着いたところは鬼ヶ島。鬼も小僧の夢が聞きたくて、鬼の宝物である不思議な棒を渡す。さて、どんな夢だったのか？	1月 初夢 鬼
54	しりなりべら		渋谷勲 // 脚本 福田庄助 // 絵 童心社	中央 渥美 赤羽根	お調子者のあにさは、お正月に初夢を見た。すると次の朝、不思議なしゃもじを手に入れる。赤色の表側で尻をなでるとおならが止まらなくなり、黒色の裏側でなでると鳴り止むというもの。さて、町に出てあにさがしたこととは？	1月 初夢 お正月 しゃもじ おなら ユーモア
55	まえがみたろう (前編・後編)		松谷みよ子 // 脚本 箕田源二郎 // 絵 童心社	中央	魔物退治に出かけたたろうは、道中、病気の火の鳥に出会う。火の鳥の病気を治すために、命の水を探しに行くが、途中、今度は動物たちを助ける。やっと魔物の住むご殿につき、魔物をやっつけるが、大洪水に…。	1月 お正月 長寿 洪水
56	ふくはうち、おにもうち		藤田勝治 // 脚・画 童心社	中央	田植えが大好きな鬼たち、いつもこっそり植えてしまい、秋にはたくさんのお米がとれる。しかし、ある年、おばあさんに見られてしまい、田植えができなくなる。村人は残念に思い、その年から庄屋さんの家では、豆まきには「福は内、鬼も内」と言うようになる。	2月 節分 鬼 田植え 豆まき

57	なぜ、せつぶんに 豆をまくの？		国松俊英 // 脚本 藤田勝治 // 絵 童心社	中央 赤羽根	雨を降らせる代わりに鬼の人質となったふく。母の機転で家に帰ることができたが、鬼が連れ戻しにやって来た。鬼を追い払うためまいたのは、穀物の靈が宿るという豆。「鬼は外、福は内」の由来となる話。	2月 節分 豆まき 鬼
58	おにとおひやくしょうさん		瀬尾七重 // 作 倉橋達治 // 画 教育画劇	中央 渥美	「大きな臼を持ち上げたものに娘を嫁にやる」と聞き、鬼は臼を持ち上げてしまう。娘を連れ去られた親は、何とか娘を助けだし、村へ帰る。鬼に娘を連れ戻されないように鬼の嫌いなイワシの頭とヒイラギを置き…。	2月 節分・豆まき イワシ ヒイラギ
59	およめさんにはけたきつね		吉田タキノ // 文 田中秀幸 // 画 教育画劇	中央 渥美	いたずらギツネをこらしめようと、「真冬の池で、しっぽを使い魚釣りをするとよく釣れる」と嘘を教えた村人。キツネのしっぽは凍ってしまい、逃げられずに捕まってしまう。村人に泣いて謝り、離してもらったキツネだったが…。	1月・2月 ユーモア キツネ 嫁入り



## 落 語

番号	タイトル	表 紙	著者・出版社	所 �藏	内 容	キーワード
60	うなぎにきいて		桂文我 // 脚本 長谷川義史 // 絵 童心社	中央	ウナギの蒲焼きが食べたくなったきろくとせいはちが店に入ると、板前がお休みで断られてしまった。どうしても食べたいので、なんとか主人に料理してもらおうとするが、ウナギをつかむことだけで精いっぱい。なんとかウナギを離さずにいるのだが…。	ユーモア ウナギ
61	さぎとり		桂文我 // 脚本 国松エリカ // 絵 童心社	中央	でんすけさんは、サギをたくさん捕まえて家で飼おうと思いついた。隣町の池に行き、遠くから「サーギー」と言って、少しずつサギに近づいていくが…。サギはでんすけさんの思い通り、うまく捕まえられるのか。	ユーモア サギ だじやれ
62	ぞろぞろ		三遊亭圓窓 // 脚本 渡辺享子 // 画 汐文社	中央	落ちていたお稻荷さんの“のぼり”を、元の場所に返した茶店のじいさん。その後、茶店に来る客は増えるし、無いはずのワラジがぞろぞろ出てきて売れる。それを見ていた床屋の親方は、自分もとお祈りするが…。	ユーモア 稻荷神社 わらじ
63	となりのさくら		桂文我 // 脚本 長野ヒデ子 // 絵 童心社	中央	家の庭の桜の枝が折られていたので、隣の隠居に真相をたたずと、「自分の家まで枝が伸びていたから切った」と言う。怒った旦那は、隠居に仕返しをすべく、ある計画を立てる。旦那が家の庭で大宴会を開いてしたこととは？	3月・4月 ユーモア 桜 とんち
64	とまがしま		桂文我 // 脚本 田島征三 // 絵 童心社	中央	お殿様が江戸からお帰りになったが、出迎えですっと頭を下げていたたけやんは鼻血が止まらない。教えてもらったおまじないでみごとに止ましたが、さてどんなおまじない？一方、お殿様は、「“とまがしま”とはどういう島か。怪物退治に行こう！」と言い出した。	ユーモア 鼻血 おまじない
65	夏のいしや		桂文我 // 脚本 梶山俊夫 // 絵 童心社	中央	お父さんがひどい腹痛になったので、息子は医者を呼びに行った。医者は薬箱を持って向かうが、途中、息子もろともヘビに飲み込まれてしまう。下し薬をヘビのお腹にまき散らしてなんとか肛門から外に出るが、その時ヘビの腹の中に薬箱を忘れてしまい…。	ユーモア 夏 腹痛 下し薬 ヘビ

66	七どぎつね		桂文我 // 脚本 渡辺有一 // 絵 童心社	中央	伊勢神宮にお参りに行く途中、旅の2人は1匹のキツネの頭に誤って石を投げつけてしまう。怒ったキツネは、2人に仕返しをしようと考えた。畠が川に見えたり、金貸しばあさんの幽霊が見えたりと、2人はキツネにだまされ続け…。	ユーモア キツネ 旅
67	めがねやとどろぼう		桂文我 // 脚本 東菜奈 // 絵 童心社	中央	ある夜、2人の間抜けな泥棒が、どこの屋敷に泥棒に入ろうかと相談し合っていた。眼鏡屋に入ろうと話は決まるが、それを家の中で聞いていたのが、眼鏡屋の丁稚だったから大変。丁稚は、泥棒にいたずらをしようと考える。	ユーモア 眼鏡 泥棒 いたずら



## ゆかいな昔話・民話

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
68	あんもちみつ		水谷章三 // 脚本 宮本忠夫 // 画 童心社	中央 渥美	隣からあん餅を3つもらったおじじとおばば。仲良く2人で食べたが、最後に残ったあん餅を、「にらめっこで勝った方が食べよう」とおじじが提案。2人とも負けられないと、とうとう真夜中になってしまった。そこへ、泥棒が忍び込んできて、最後のあん餅に手を出そうとする。	ユーモア あん餅 にらめっこ 泥棒
69	いたずらぎつね		桜井信夫 // 脚本 藤本四郎 // 画 童心社	中央 渥美 赤羽根	お経をあげた帰り道、和尚さんはキツネにご馳走を取られてしまう。怒った小僧が、とんちでキツネを捕まえるが、キツネは仏様に化けて逃れようとする。小僧は再び知恵を出して、キツネをこらしめる。やさしい和尚さんがその後したこととは？	とんち キツネ 化ける
70	いっきゅうさん		水谷章三 // 脚本 夏目尚吾 // 画 鈴木出版	中央	いっきゅうさんは頭の良い小坊主。和尚さんに怒られても、とんちを利かせて逆に困らせてしまう。ある時、その噂を聞いた殿様は、「ついたてに描かれた虎が夜暴れるので何とかしろ」と言った。さて、いっきゅうさんのしたこととは？	とんち トラ
71	いもころがし		川崎大治 // 作 前川かずお // 画 童心社	中央 渥美	和尚さんは、小僧を連れて大事な集まりに出ると、「いいか、今日は私のするようにするんじゃぞ」と言った。小僧は和尚さんが芋を落とせば芋を落とし、ご飯粒を頬につければつける。その上お経も変なまま真似をして、和尚さんは赤っ恥をかく。	ユーモア 芋 お経
72	うまかたどんと たぬきのポンタ		菊地ただし // 文 塩田守男 // 画 教育画劇	中央 渥美	うまかたどんは、村の子どもに捕まったコダヌキのポンタを、団子と交換に助けてあげた。ポンタはその夜、恩返しにお手伝いをすると申し出で、掃除、洗濯、馬の番で大活躍。	ユーモア 馬方 タヌキ 化ける
73	おさんぎつね		折口てつお // 文 若菜珪 // 画 教育画劇	中央 渥美	酔っぱらった和尚さんから、お土産の油揚げを盗んだキツネ。今度は寺の小僧さんもだまそうと、酔っぱらった和尚さんに化けるが、小僧さんが上手にとんちでキツネをだまし、こらしめる。	とんち キツネ 化ける

74	かつぱのすもう		渋谷勲 // 脚本 梅田俊作 // 画 童心社	中央 渥美	相撲好きの河童たちが、相撲好きのおじいさんに勝負を挑んでくる。強い河童たちに何度も投げられ、おじいさんが思いついたのは、河童の頭の皿の水をなくす方法。さて、それは？	ユーモア 相撲 河童
75	くいしんぼうのおしょうさん		鬼塚りつ子 // 文 藤本四郎 // 画 教育画劇	中央	和尚さんはお経をあげに行き、お餅を3つもらって帰ってきた。3人の小僧さんたちと分けるのは難しく、和尚さんは1人で全部食べてしまった。それを見た小僧さんたち、自分たちもお餅を食べようと知恵を絞る。さて、そこで思いついた方法とは？	ユーモア お餅
76	けちくらべ		小野和子 // 文 大和田美鈴 // 画 教育画劇	中央 渥美	けちの名人けちべえさんと、けちのチャンピオンしわべえさんの“けちくらべ”。ある日、しわべえさんがけちべえさんの家に行った帰り、暗くて履き物が見えなくなってしまう。すると、けちべえさんは何とも驚きの方法で火をつけてみせた。さて、その愉快な方法とは？	ユーモア けち ウナギ
77	ゲンさんのてんのぼり		菊池俊 // 文 塩田守男 // 画 教育画劇	中央 渥美	親孝行のゲンさんは、お母さんに食べさせるウナギを探りに川へ出かける。すると、逃げるウナギを追いかけるうち、雲の上へ行ったり海の底へ行ったりと、とんでもないことに…。さて、ゲンさんがお母さんに持って帰ったものとは？	ユーモア ウナギ 親孝行
78	さめにのまれた ゲンナさん		やすいすえこ // 文 はたよしこ // 画 教育画劇	中央	ある時、海を渡っていた船が突然止まった。船頭さんが言うには、「人を飲み込むサメがいる」とのこと。そして、どうやらサメが気に入ったのは、お坊さんでお医者さんのゲンナさん。薬箱を持ってサメの口の中に飛び込んだゲンナさんがしたこととは？	ユーモア サメ 海 薬
79	サルとカニのもちつき		吉田タキノ // 文 くすはら順子 // 画 教育画劇	中央	おなかがペコペコのサル太とカニ子は、山のてっぺんで仲良くアズキ餅を作る。すると、よくぱりサル太は独り占めしたくなり、臼を山から転がす。やっと臼を捕まえたと思ったら中に餅がない。いったいどこに？ サルのお尻とカニのはさみの「なぜ？」がわかるお話。	ユーモア サル カニ 餅 臼

80	じごくけんぶつ		水谷章三 // 脚本 藤田勝治 // 画 童心社	中央 渥美 赤羽根	軽業師と歯抜き師と山伏は、仕事が嫌いで仲の良い3人組。ある日、3人がやって来たのは、えんま大王のいる“地獄”。恐ろしい数々の仕掛けを、3人は持ち前の特技で難なく乗り越えていく。愉快な地獄見物の後、3人が思ったこととは？	ユーモア 地獄 鬼
81	しょうじきこぞうさん		松岡節 // 文 毛利将範 // 画 教育画劇	中央	和尚さんの言う事はきちんと守る小僧さん。ある日、「上から落ちてくるものは何でも捨え！」と教えられた小僧さん。和尚さんの頭巾の中に、馬の落とす糞まで入れてしまい…。	ユーモア 正直 馬
82	しりやのめいじん		望月新三郎 // 脚本 金沢佑光 // 画 童心社	中央 渥美	百姓の若者が宿屋に泊ると、偶然、いじっていた矢が泥棒の尻に命中してしまう。騒ぎは大きくなり、とうとうこの噂を耳にした殿様から、「池のカモを弓矢で射止めよ！」との命令が若者に下された。困り果てた若者が取った行動とは？	ユーモア 弓矢 尻
83	とりのみじっちゃん		斎藤純 // 脚本 宮本忠夫 // 画 童心社	中央	じっちゃんが山の畑を耕していると、口の中に1羽の鳥が入ってしまう。一生懸命取り出そうとするが、出てこない。そのうち、じっちゃんの“へ”から「ちんちょろりん」と声がするようになり、その噂がお殿様のところに…。	ユーモア おなら 褒美
84	ないて百にん力		東川洋子 // 文 池田げんえい // 画 教育画劇	中央 渥美	貧しい村にデクと呼ばれる、呑気な若者がいた。ある日、大松を切り出しに行った村人たちに昼飯を届けることになるが、道中、10人分の昼飯を食べてしまった。怒った村人たちに泣き出してしまうデクだったが、なにやら腹の底から力が湧いてくるのだった。	ユーモア 大食い 泣く
85	だんごひよいひよい		水谷章三 // 脚本 宮本忠夫 // 画 童心社	中央	物忘れのひどい婿さんが、はじめて嫁さんの親のところへ遊びに行き、ご馳走になる。見たことも聞いたこともない“団子”というものにひどく感動した婿さんは、嫁さんにも作ってもらおうと、「団子、団子！」と唱えながら家に向かうのだが…。	ユーモア 物忘れ 婿 団子
86	つんぶくだるま		鳥兎沼宏之 // 作 金沢佑光 // 画 童心社	中央	子どもたちは、一緒に遊ぼうとお堂のだるまさんを川へ運び出した。だるまさんは川をどんどん下り、海の側に流れ着いた。海辺で里のおじいさんが発見し、家に持ち帰って毎日拝んでいると、夢の中でだるまさんが、「もとの村に返してほしい」と言う。	ユーモア だるま 川 海 厄払い

87	どくのはいったかめ		多田ヒロシ // 文・画 教育画劇	中央 渥美	お金持ちの主人は用事で出かけることになり、小僧のたろう、じろう、お手伝いのおはなの3人が留守番をすることに。主人は、「かめの中には毒が入っていて、匂いを嗅ぐだけでも死んでしまう。絶対に触らぬように！」と、3人に言いつけて出かけたが…。	ユーモア お手伝い 毒 黒砂糖
88	ねずみきょう		武士田忠 // 脚本 渡辺有一 // 画 童心社	中央 渥美	おじいさんに死なれたばかりのおばあさんが、誰かにお経を教えてもらいたいと思っていた時、坊さんが一晩泊めてほしいとやって来た。おばあさんは、お経を教えてくれたら良いと迎え入れたが、お経を知らない坊さんは「オンチョロチョロ オンチョロチョロ」と唱えだし…。	ユーモア お経 ネズミ 泥棒
89	ねずみのほりもの		鶴見正夫 // 文 安井康二 // 画 教育画劇	中央 渥美	長者どんの持っていたネズミの彫り物に対抗して、きつちよむさんもネズミの彫り物を作った。長者どんが彫ったものと、自分の彫ったもの、どちらが本物のネズミに近いかで勝負。さて、その結果は？	とんち 彫り物 鰹節 ネズミ
90	まっくろけのうし		小野和子 // 文 岡村好文 // 画 教育画劇	中央	お百姓のたい作が、旅の途中2人の絵描きに会う。「自分も絵描きだ」とつい嘘をついてしまい、お互に絵を比べあうことに。たい作は“真っ暗闇の中で寝ている真っ黒の牛”という題で、真っ黒に塗りつぶされた絵を見せる。さて、この勝負どちらが勝つか？	ユーモア 嘘 腕比べ 絵
91	まほうのこなぐすり		小野和子 // 文 西村郁雄 // 画 教育画劇	中央 渥美	振りかけると、何でもくっついてくる魔法の薬を手にした怠け者の佐助。きれいな娘さんに振りかけようとして誤っておばあさんにかかり、おばあさんと暮らすことに。一方働き者の豆吉は、まき散らした粉が天狗のうちわにかかり…。	ユーモア 薬 怠け者 働き者



## おなじみの昔話・民話 ほか

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
92	いっすんぼうし		浜田留美 // 文 池田仙三郎 // 画 教育画劇	中央 渥美	手のひらにのるほど小さな一寸法師は、お椀の舟で都に出た。大臣が屋敷においてくれることになったが、ある日、姫が鬼にさらわれてしまう。一寸法師は姫を助けるため、大きな鬼に針の刀で立ち向かっていく。一寸法師と姫はさて…。	小さい 勇気 鬼
93	いったんもめん		古山広子 // 脚本 石倉欣二 // 画 童心社	中央	月の明るい夜、旅人はきれいな白い布を見つけた。拾おうとしたところ、布が首に巻きつき…、なんと布は妖怪「一反木綿」だった。通りかかった侍が斬り付け、提灯の火で退治するが、旅人は欲を出したばかりに…。	妖怪 教訓
94	うみにしずんだおに		松谷みよ子 // 脚本 二俣英五郎 // 画 童心社	中央 渥美	嵐の夜、山よりも大きい巨大な鬼が浜辺の人間を助けるため、大岩を担いで海へ向かった。しかし、海は大荒れで、親鬼はそばを離れたがらない小鬼をかばって海に飲まれてしまい…。四国の久礼(くれ)という所に伝わる話。	鬼 親子 海 岩 四国
95	うみのみずはなぜからい		水谷章三 // 脚本 藤田勝治 // 絵 童心社	中央	漁師の若者が、何でも出せる「ひき臼」を神様からもらうが、泥棒に盗まれてしまう。その泥棒、逃げる船の中で大福もちを食べ、塩を舐めたくなつた。臼を使って塩を出すが、止め方が分からない。塩の重みで船は沈みはじめ…。	臼 海 塩 泥棒
96	うりこひめとあまのじゃく		松谷みよ子 // 脚本 梶尾俊夫 // 画 童心社	中央 渥美	おじいさんとおばあさんが川から流れてきた瓜を拾って食べようすると、中から女の子が…。瓜から生まれたうりこひめは美しく育ち、あまのじゃくに誘拐されてしまう。あまのじゃくは、うりこひめに化けてだまそうとするが…。	瓜 あまのじゃく はた織り
97	おけやのてんのぼり		川崎大治 // 脚本 二俣英五郎 // 画 童心社	中央 渥美 赤羽根	大きな桶の“たが”が外れて、天のカミナリ様の所まで飛ばされてしまった桶屋。カミナリ様を手伝って下界に雨を降らせるが、雲の隙間から落ちて大きな杉の木に引っかかってしまう。助けに来た人たちが大風呂敷で受け止めるが…。	雨 雷 桶 風呂敷

98	おにろく		坪田譲治 // 脚本 岡野和 // 絵 童心社	中央 渥美	大工が村人に頼まれて、流れの急な川に橋を架けることになるが、難しい。困っていると、川の中から鬼が現れて、「橋をかけてやるから、代わりにおまえの目玉をくれ。それがダメなら、俺の名前を当ててみろ！」と言う。さて、目玉は取られてしまうのか？	鬼 大工 橋
99	おひやくしようとえんまさま		君島久子 // 再話 堀尾青史 // 脚本 童心社	中央	元気なお百姓のりゅうじいさんは、えんま様の帳面上ではとっくに死んでいる歳。鬼を行かせて連れて来ようとするが、賢いりゅうじいに追い払われてしまう。とうとう、えんま様は自分で行くことにするが…。	長寿 鬼 えんま大王
100	かぐやひめ		福島のり子 // 文 岩本圭永子 // 画 教育画劇	中央 渥美	竹を取って暮らすおじいさんは、ある日、竹の中からかぐやひめを見つける。以来、幸運が続いてお金持ちになり、偉い人が「かぐやひめをお嫁にしたい」と申しってきた。かぐやひめは無理難題でそれを断るが、ある時、月からの使者がやってきて…。	月 竹
101	かちかちやま		西本鶴介 // 文 遠竹弘幸 // 画 教育画劇	中央 渥美	おじいさんが豆をまいていると、タヌキがからかいにくる。怒ったおじいさんはタヌキを捕まえるが、何とおばあさんがそのタヌキに殺されてしまう。泣いているおじいさんにウサギは「仇を取ろう」と申し出る。さて、ウサギはどんな手を使ってタヌキに仕返しをするのか？	タヌキ ウサギ 火
102	ききみみずきん		堀尾青史 // 作 田中武紫 // 画 童心社	中央 渥美	働き者の百姓しょうべえは、氏神様から、「かぶると鳥の声が人間の言葉で聞こえる」という不思議な頭巾をもらう。そして、カラスたちが「村の長者の娘がヘビのたたりで病気だ」と話しているのを耳にした。娘を助けるため、長者の家に行ってしまうべえがしたこととは？	頭巾 カラス ヘビ 神様
103	こぶとりじいさん		鶴見正夫 // 文 西原ひろし // 画 教育画劇	中央 渥美	きこりのおじいさんは、山のお堂で雨やどりをしていると、いつのまにか眠ってしまった。目が覚めると、何と外では鬼たちが飲めや歌えの大騒ぎ。その様子があまりにも楽しそうで、おじいさんはつい…。さて、鬼からもられた思いもかけぬ“ご褒美”とは？	こぶ 鬼 踊り

104	じいさまときつね		増田尚子 // 脚本 二俣英五郎 // 画 童心社	中央 渥美	いたずら好きなおじいさんは、昼寝をしていたキツネを思い切り脅かしてやった。するとその帰り道、うす気味悪い葬式の行列に出くわし、何と棺の中からは死人の手が…。夢中で逃げたおじいさんの結末とは?	キツネ お化け だまし合い
105	そんごくうだいかつやく		呉承恩 // 原作 川崎大治 // 脚本 童心社	中央 渥美	金角にしてやられた孫悟空は、金角のご殿に殴り込みに行く。しかし、「名前を呼ばれて答えると瓢箪の中に吸い込まれてしまう」という罠にかかる。ハエに化けて瓢箪から抜け出し、今度は逆に金角の名前を呼ぶ…。お馴染みの西遊記。	西遊記 瓢箪
106	たのきゅう		渋谷勲 // 脚本 藤田勝治 // 画 童心社	中央 渥美	旅役者のたのきゅうは、病気の母に会いに行く途中、峠でおじいさんに化けたうわばみ(大蛇)に出くわす。うわばみは、たのきゅうをタヌキと思い込み、「化けてみせてくれ」と迫ってくる。さて、たのきゅうはどうやってこのピンチを切り抜けるのか?	役者 ヘビ タヌキ 親孝行
107	てんぐのかくれみの		常光徹 // 脚本 長野ヒデ子 // 絵 童心社	中央 渥美	天狗の住む村はずれ。とんちもののひこいちは、遠くまで見えるという遠眼鏡と天狗の隠れみのを交換した。まんまと隠れみのを手に入れたひこいちは、村に戻り、姿を消して勝手に人の物を食べたり飲んだり。ところがある日、おっかさんが庭でみのを燃やしてしまい…。	天狗 眼鏡 みの
108	天人のはごろも		堀尾青史 // 脚本 丸木俊 // 画 童心社	中央	総助が山の池で釣りをしていると、天人が水浴びをしている。思わずそばにあった羽衣を盗んでしまうが、よっぽらいの権平にだまされ、羽衣は殿様の手に渡ってしまった。総助は、天人を助けるためなんとか羽衣を取り戻そうとする。	羽衣 天人 はた織り
109	天人のよめさま		松谷みよ子 // 作 中尾彰 // 画 童心社	中央 渥美	ケシの花を作るお百姓がいた。ある日のこと、畑を見回っていると、美しい音色と共に天人が舞い降りてきた。うつらうつらと寝てしまった天人を、どうしても嫁さんにしたくなつたお百姓は、天人の“あやごろも”を隠してしまう。	ケシ 天人 蓮 羽衣
110	とのさまからもらった ごほうび		山路愛子 // 脚本 渋谷正斗 // 画 童心社	中央	お殿様が町中に「灰で縄をなつて持ってきた者には、望み通りの褒美をやる」と、おふれを出した。すると、ある男が一晩かかって灰の縄を作り、お城に持参した。お殿様は約束通り男のほしい物を褒美に与えるが、「褒美の箱は2年経つてから開けるように」と命じられ…。	願い事 褒美 鏡

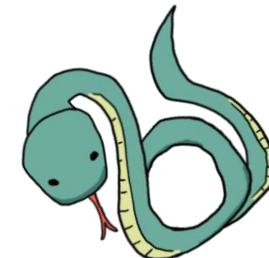
111	ばけものでら		水谷章三 // 脚本 宮本忠夫 // 画 童心社	中央 渥美	旅の途中、古く荒れ放題のお寺に一晩泊めもらうことになった和尚さん。村人から「化けもんが出るお寺で、これまでに何人食い殺されたことか」と忠告されるが、お構いなしに本堂の真ん中で、たちまちぐっすり寝込んでしまい…。	寺 化け物
112	はちかつぎ		木村次郎 // 作 池田仙三郎 // 画 童心社	中央	娘ばかりかわいがる夫にヤキモチを焼き、継母は娘を山の奥に捨ててしまう。娘は山の中で鬼に出会うが、不思議な粉で逃げ切り、その後、若君と結婚する。さて、娘が鉢をかぶるようになったのはどんな理由だったのか？	鉢 鬼 遺言
113	花咲き山		斎藤隆介 // 原作 水谷章三 // 脚色 梅田俊作 // 絵 鈴木出版	中央	道に迷ったあやは、山姥に出会う。山姥はそこに咲いている花を指し、「やさしいことを1つすると1つ花が咲き、男が命を捨ててやさしいことをすると、山が1つできる」と諭す。	山姥 うわさ 善行
114	花のきむらとぬすびとたち (前編・後編)		新美南吉 // 原作 水谷章三 // 脚本 西山三郎 // 画 童心社	中央	花のきむらで、泥棒をしようとしていた親分。子どもから牛を預かったことを発端に、村人にやさしくされて感動する。そして、自分たちが盗人であることを告白。なんとその子ども、実はお地蔵さんだった。お地蔵さんは慈悲の心で何でもお見通し。	盗人 改心 地蔵 牛
115	豆っこ太郎		川崎大治 // 作 岡野和 // 画 童心社	中央 渥美	丸太から生まれた豆っこ太郎は、老夫婦の子どもになる。しかし、見世物にしようとした村人に太郎は売られてしまう。うまく逃げ出しが、その途中、牛やオオカミに飲み込まれることに。さて、太郎の運命は？	子ども 見世物 オオカミ
116	ももたろう		松谷みよ子 // 脚本 二俣英五郎 // 画 童心社	中央 赤羽根	川で拾った桃から生まれた桃太郎。老夫婦の子どもとして育ったけれど、いつも怠けてばかり。村が悪い鬼たちに襲われ、やつと腰をあげて鬼退治に出かける…。	怠惰 鬼
117	やまんばと三にんきょうだい		水谷章三 // 脚本 伊藤秀男 // 絵 童心社	中央 渥美	山姥に両親を食われた兄弟3人のところに、母親に化けた山姥がやって来る。必死に逃げて木の上に登るが、山姥も追いかけてくる。さて、兄弟は捕まってしまうのか？	山姥 兄弟

118	りゅうぐうのおよめさん	 The book cover features a girl with short brown hair and a blue headband, looking slightly to the side. The title 'りゅうぐうの およめさん' is written in pink and yellow stylized text above her. The background is a colorful illustration of a dragon and flowers.	松谷みよ子 // 脚本 遠藤てるよ // 画 童心社	中央	竜宮城に招待された若者は、りゅうじんさまの娘を嫁に もらい家に帰る。美しい娘の評判を聞いたお殿さまは、 なんとかその娘を自分のものにしようとするが、娘の不 思議な力は、殿さまのとんでもない命令も見事にかわ す。	竜宮城 願い事
-----	-------------	---	----------------------------------	----	---	------------



## 郷 土

番号	タイトル	表 紙	著者・出版社	所 �藏	内 容	キーワード
119	膳貸し岩		泉小学校読み聞かせの会「まつぱっくり」//脚本・画・制作	中央 渥美	貧しさゆえ、息子の結婚式に使うお膳がない。岩の上で悩んでいると、不思議なことに翌日その岩の上にお膳がたくさん現れる。田原市伊川津町に伝わる昔話。	結婚式 お膳 貧困
120	かなしみの鸚鵡石		伊藤 正徳 // 脚本 折戸 裕美 // 画 渥美町教育委員会	中央 渥美	許婚(いいなずけ)の母が大蛇であったと知り、婚約が破たん。それを苦に、娘は岩の上から身を投げる。その後、その岩は「鸚鵡(おうむ)石」と呼ばれるようになった。田原市伊川津町に伝わる昔話。	ヘビ 恋
121	海で拾ったお地蔵さん		渥美町 教育委員会	中央 渥美	漁師の文作が漁をしていると、網にお地蔵さんが何度もかかる。文作は和尚さんに相談し、そのお地蔵さんをお寺におまつりし、自分もお坊さんになった。田原市古田町に伝わる昔話。	漁 地蔵 寺



## 大型紙芝居

いずれも普通サイズもあります。

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
122	いなむらの火		川崎大治 // 脚本 降矢洋子 // 絵 童心社	中央 渥美 赤羽根	大地震で村に津波が来るという時、村人たちは祭の準備で忙しく気づいていない。丘の上から津波に気づいた庄屋の目に留まったのは、稻を干している稻むら。大事な稻ではあるが、これに火を点け、村人たちに知らせることに…。	防災 地震 津波
123	したきりすずめ		松谷みよ子 // 脚本 堀内誠一 // 画 童心社	中央 渥美 赤羽根	おじいさんがチョンと名づけて可愛がっていたスズメを、おばあさんは、大事な糊をなめたからと舌を切ってしまう。心優しいおじいさんはスズメに会いに出かけ、帰りにお土産のつづらをもらってきた。そしてその後、欲深なおばあさんも。二人のつづらには、さて何が入っていたのか。	スズメ お土産 恩返し
124	たべられたやまんば		松谷みよ子 // 作 二俣英五郎 // 画 童心社	中央 渥美 赤羽根	小僧は山の中で出会ったおばあさんに、「今晚遊びに来るよう」と言われる。これを和尚さんに話すと、「山姥だから行かないほうがいい」と止められる。しかし、好奇心旺盛な小僧は、三枚のお札をもらって山姥の元に出かけることに…。	山姥 お札
125	なんにもせんにん		巖谷小波 // 原作 川崎大治 // 脚本 佐藤わき子 // 画 童心社	中央	ある山里に“たすけ”という日本一なまけものの男がいた。ある日、さんざん野原で昼寝をして家に帰ってくると、見知らぬ壺の中に小さな小さな男があり、家の留守番においてほしいと言う。しかし、その男は、たすけが怠ければ怠けるほど、毎日からだが大きくなっていく。	怠け者 壺 宝 労働

## 大型絵本

番号	タイトル	表紙	著者・出版社	所蔵	内 容	キーワード
126	くものすおやぶん とりものちょう		秋山あゆ子 // さく 福音館書店	中央 渥美	「春のお祭りに使う倉の中のお菓子を盗む」と犯行予告をもらった店の主人が、くものす親分に助けを求める。親分は蜘蛛の糸の技で見事犯人を捕まえ、更生させる。おかげでお祭りは、賑やかに開催される。	春 祭り 捕り物帳 親分
127	半日村		斎藤隆介 // 作 滝平二郎 // 絵 岩崎書店	中央	半日しか陽が当たらない半日村は、冬は寒いし日照不足で作物の育ちが悪い。そこで、ある村の子どもが陽をさえぎる山に登り、少しずつ山の土を海へ運び始める。それを見ていた村人が、次から次へと道具を持って協力しはじめ…。	太陽 根性 協力
128	花咲き山		斎藤隆介 // 作 滝平二郎 // 絵 岩崎書店	中央	道に迷ったあやは、山姥に出会う。山姥はそこに咲いている花を指し、「やさしいことを1つすると1つ花が咲き、男が命を捨ててやさしいことをすると、山が1つできる」と諭す。	山姥 うわさ 善行
129	モチモチの木		斎藤隆介 // 作 滝平二郎 // 絵 岩崎書店	中央	夜トイレに行くこともできない臆病な豆太は、ある夜、じさまが病気になり、勇気を振りしぶってお医者様のもとへ駆けて行った。すると、一年に一度、勇気のあるものだけが見ることのできる光るモチモチの木の姿が…。	トイレ 勇気 おじいさん

